

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	33人	算数	33人	理科	33人
第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人

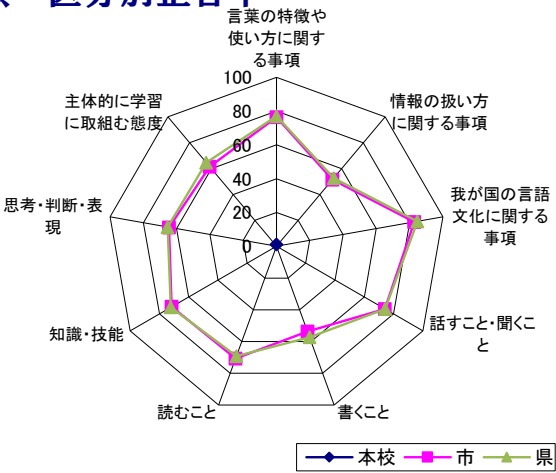
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.1	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	41.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	78.8	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	75.8	74.1	74.2
	書くこと	39.9	53.7	57.2
	読むこと	68.2	70.7	69.2
観点	知識・技能	63.9	71.6	72.3
	思考・判断・表現	58.4	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	47.9	61.6	64.7



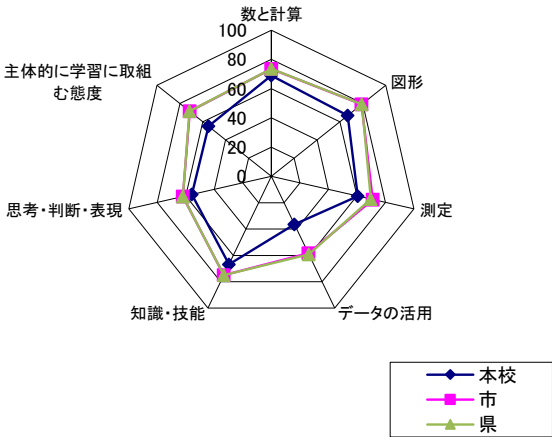
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は、県の平均を7.9ポイント下回っている。 ○主語と述語を答える問題では正答率が78.8%であった。 ○様子や行動を表す言葉の使い方を問う問題では、正答率が81.8%であったことから、概ね理解していると言える。 ○漢字を書く問題では、「予想」の正答率が81.8%であった。 ●漢字を読む問題では、「都合」の正答率は48.5%であった。 ●ローマ字の読みでは、33.3%と特に低い正答率であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習の時間等を使って、既習の漢字の読み・書きを復習する時間を設け、反復練習することで定着を図る。 ・文章の音読を通して、漢字の読みを声に出す機会を多く持つ。 ・ローマ字の指導では、kya,kyu,kyoなどの拗音、「kappa」などの促音、「houki」「imouto」などの綴り方の指導を繰り返し行う。また、ドリルやプリント等で書く練習を行い、定着を図る。 ・クロームブックでローマ字入力の練習を行い、ローマ字に触れる機会を多く持つ。
情報の扱い方にに関する事項	・平均正答率は、県の平均を11.3ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く問題では、正答率が21.2%であった。また、無回答率が15.2%であった。	・調べたことを文章にまとめる活動を多く行う。 ・自分の考えを述べたり書いたりする際には「理由」を問い、根拠のある論述ができるようにする。 ・思ったことや考えたことを各教科でも記述する機会を増やし、文章を書くことに慣れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は、県の平均を5.9ポイント下回っている。 ●漢字のへんやつくりを問う問題では正答率が78.8%であり、県を5.9ポイントを下回っている。	・漢字を部首ごとに分けたり、新出漢字の部首を調べさせたりして、授業の中で漢字のつくりを理解する機会を多く設ける。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は75.8%で、県の平均を1.6ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことを捉える問題では、正答率が78.8%であり、県の74.6%を上回った。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、正答率は54.5%であり、県の71.2%を下回った。	・話し合い活動を行う際には、自分の考えや、考えの根拠を明らかにして話すことを指導する。 ・意見を述べた児童には、理由を問い返し、自分の考えの根拠を持つよう意識付けを図る。
書くこと	・平均正答率は、県の平均を17.3ポイント下回っている。 ●自分の考えを書く問題では、「指定された長さで文章を書くこと」が48.5%、「自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くこと」が51.5%と、低い正答率であった。	・思ったことや考えたことを各教科で記述する機会を増やし、文章を書くことに慣れるようにする。 ・学校行事や生活等の振り返りを短作文に書かせるなど、継続的に作文指導を行う。その際、字数や行数を指定したり、理由を明らかにさせたりし、決められた枠組みの中で書く活動を行う。
読むこと	・平均正答率は、県の平均を1ポイント下回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、正答率が81.8%であり、県の77.4%を上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、30.3%と、低い正答率であった。	・物語文の学習では、登場人物の気持ちや思いを文章から読み取る活動を繰り返し行う。 ・説明文の学習では、筆者の考えが表れている言葉や文章に気を付けて、内容を正確に読み取れるようにする。 ・図書室へ行く時間を設けたり、朝の読書の時間を活用して、読書に親しむ態度を養う。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.0	73.5	73.6
	図形	66.7	79.0	79.1
	測定	60.6	71.1	69.8
	データの活用	36.4	58.4	59.2
観点	知識・技能	66.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	55.8	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	55.0	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

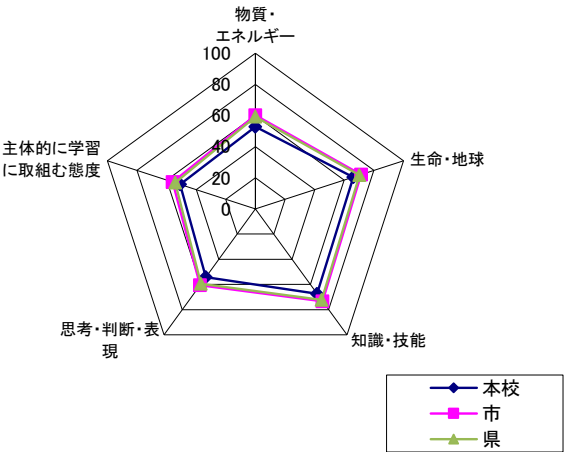
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、県の平均を4.6ポイント下回っている。 ○文章問題を解くための除法の式を選択する問題は、県平均より12.2ポイント上回った。 ●数の相対的な大きさを答える問題は、正答率は県平均より22.3ポイント下回った。 ●余りを切り上げて処理する問題及び回答の理由を説明する問題は県平均より23.9ポイント下回った。	・朝の学習の時間にプリントを用意し、繰り返し実施することで、正しい四則計算の解き方を定着できるようにする。その際にも習熟度別でクラスを分けるなどをして定着できていない単元の学習の定着を図る。 ・文章からどのように立式、解答をすればいいのかを考えるような習慣を付けさせる。
図形	・平均正答率は、県の平均を12.4ポイント下回っている。 ●円の半径についての理解を問う問題は、正答率は県平均より12.6ポイント下回った。 ●正三角形を作図する問題は、正答率が県平均より15.1ポイント下回った。	・円や球の直径や半径の特徴を正しく理解できるように、実際に長さを測ったりしてそれぞれの長さの関係の理解を深められるようにする。 ・定規やコンパス、分度器の正しい使い方を理解し、図形の特徴を理解できるように、ICTの活用や習熟度別学習やかがやきルームなどの個別指導に重点を置き、定規、コンパス、分度器の使い方を定着できるようにする。
測定	・平均正答率は、県の平均を9.2ポイント下回っている。 ○単位の前にkをつけると1000倍になることを説明する問題は、県平均より2.6ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを求める問題は、県平均より15.4ポイント下回った。	・重さや長さなどの単位の大きさを理解するために、実際に重さや長さを測る活動を授業に取り入れたりするなど、日常生活の中からも重さや長さの感覚を身に付けさせるような活動を取り入れる。
データの活用	・平均正答率は、県の平均を22.8ポイント下回っている。 ●棒グラフの1めもりの大きさに着目して、間違いを指摘する問題は県平均より26.6ポイント下回った。 ●複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る問題は、県平均より29.2ポイント下回った。	・グラフに書かれていること、縦軸や横軸の数量の意味を正しく読み取れるように教材やICT等を用い、視覚的に棒グラフが完成する様子を見れるように指導する。 ・発問されている問題と棒グラフを比較して正しく回答できるように文章題を読み取りを重点的に指導する。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.8	60.2	59.2
	生命・地球	66.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	67.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	54.2	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	50.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は、県の平均を6.4ポイント下回っている。 ○自然現象についての基本的な知識や理解度を問う内容については、県の平均以上または同程度の正答率であった。 ●風やゴムのはたらき、物の重さについての正答率は県の平均を10ポイントほど下回っていた。 ●思考力や判断力、表現力について問う内容については、県の平均を下回る正答率を示すものが多かった。	・実験や観察から分かったことを考えて、自分の言葉で書いたり、友達の考察と比較したりする活動を更に充実させ、自然現象への思考力や判断力・表現力の向上を図っていく。 ・フォローアップシートを活用して、基礎的な内容の更なる定着を図る。 ・朝の学習の時間や家庭学習で、活用的問題に取り組むようにし、応用力を高めるようにする。
生命・地球	・平均正答率は、県の平均を4.2ポイント下回っている。 ○野外観察における注意点や虫メガネの使い方については、県の平均と同程度であった。 ○昆虫の体のつくりについて、基本的な知識を問う内容については、県の平均を上回る正答率であった。 ●ハウセンカやヒマワリの育ちについては、正答率が県の平均を10.0ポイントほど下回っていた。 ●ダンゴムシが昆虫ではない理由を書く問題において、県の平均を22ポイント下回る正答率であった。	・基礎的な内容の理解が不十分である単元については、朝の学習や家庭学習でフォローアップシートを活用し定着を図る。 ・単元のまとめの時間には、応用的な内容を取り入れ、自分の考えを言葉で書かせたり、クラスで話し合ったりすることで、知識の活用力や表現力を高められるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は100.0%であり、県を6.4ポイント上回っている。家庭学習については、提出率も高く、ほとんどの児童が習慣化することができており、学校生活も落ち着いているため、このような結果につながったと思われる。今後も一人一人の取組を認め、賞賛していくことでさらにやる気が向上するようにする。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の本校の肯定的回答の割合は、県の肯定的回答を16.4ポイント上回っている。一人一台のクロームブックの活用により、インターネットで調べる経験を通して、自分で調べる姿勢が身に付き、知的好奇心とともに情報活用能力が向上していると考えられる。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家でのきまりや約束を守っている」の本校の肯定的回答の割合はいずれも80.0%を超えており、家族内で良好な関係が築けていることが分かる。今後も保護者との連携をより図り、児童理解を深めていく。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の本校の肯定的回答の割合は90.9%で、県より12.8ポイント上回っていて、ニュース等に関心をもっていることが分かる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに関自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は50～60%台であり、課題がみられる。今後はより明確に、予習・復習の重要性、自主学習の方法について明確に伝えていく必要がある。進んで予習や復習に取り組んでいる児童もいるので、その取組をクラス全体に紹介し、広げていく。

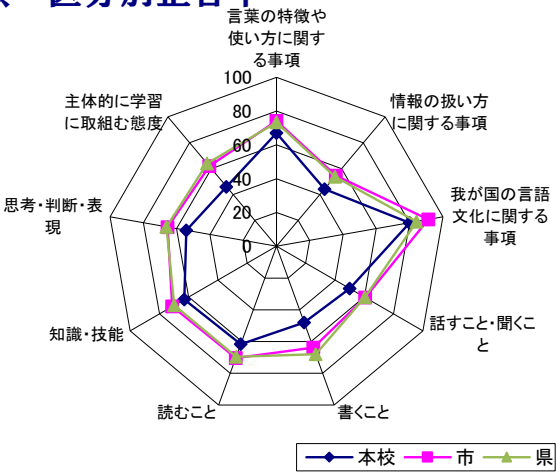
●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は、県の肯定的回答の割合を下回っている。このことから、家庭学習や調べ学習など、自分の力で取り組む活動や、話し合いで自分の考えを伝えたり、友達と協力しながら問題解決していく活動が得意と思っている児童が少ないといえる。今後はじっくり自分で考える時間を大切にしながら、友達と意見を出し合い解決していくペアやグループでの話し合い活動も多く取り入れ、学習を進めてきたい。

●「早寝、早起きを心がけている」の肯定的回答の割合は、72.7%で県より3.3ポイント低い。また、「毎日同じくらいの時くにねている」の肯定的回答の割合は63.7%で県より14.6ポイント低い。テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしている時間が長い傾向にある。今後、懇談会や学年だより等を通じて、学習面だけでなく、健康面の情報を保護者と共有していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	44.2	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	50.0	60.6	60.4
	書くこと	48.1	63.8	68.0
	読むこと	61.7	70.4	69.6
観点	知識・技能	63.0	71.3	69.9
	思考・判断・表現	54.2	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	46.0	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

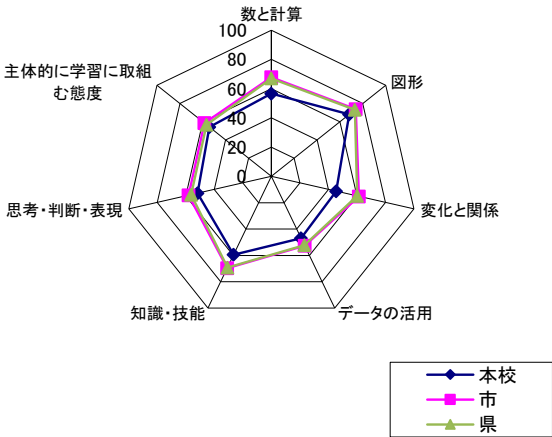
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は、県の平均を6.3ポイント下回っている。 ○「連用修飾語について理解している」という設問では、県の正答率を5.0ポイント上回っている。 ●「第4学年に配当されている漢字を正しく書いている、読んでいる」の設問では、県の正答率を下回っているものが多い。	・説明文の読み取りでは段落相互の関係に注意して内容を読み取る学習を展開し、重点的に指導していく。 ・授業中や家庭学習内で漢字辞典を使う機会を増やし、語彙力を向上させる。
情報の扱い方にに関する事項	・平均回答の割合は、県の平均を9.6ポイント下回っている。 ●「漢字辞典の使い方を理解している」という設問では、県の正答率を12.5ポイント下回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」という設問では、県の正答率を12.4ポイント下回っている。	・説明文の読み取りでは段落相互の関係に注意して内容を読み取る学習を展開し、重点的に指導していく。 ・授業中や家庭学習内で漢字辞典を使う機会を増やし、語彙力を向上させる。
我が国の言語文化に関する事項	・平均回答の割合は、県の平均を4.2ポイント下回っている。 ●「ことわざの意味を知り、正しく使っている」という設問では、県の正答等を4.2ポイント下回っている。	・日常生活の中でことわざ辞典を活用して、言葉を身に付けさせる習慣を付ける。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、県の平均を10.4ポイント下回っている。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている」という設問では、県の平均を9.9ポイント下回っている。	・友達の考えを聞いて、自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れ、根拠を挙げながら筋道を立てて話すことができるような学習活動を行う。 ・話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えを発表したり話し合いを進行したりまとめたりする体験を多く取り入れていく。
書くこと	・平均回答の割合は、県の平均を19.9ポイント下回っている。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」という設問では、22.5ポイント下回っている。 ●「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている」という設問では、県平均を20.4ポイント下回っている。	・行事の後の作文など文章を書く機会を設け、段落を意識した文が書けるようにしていく。 ・自分の意見とその理由や根拠をはっきりさせて書くことができるように日常のノート指導でも具体的に働きかける。
読むこと	・平均回答の割合は、県の平均を7.9ポイント下回っている。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有している」という設問では、県平均を1.6ポイント上回っている。 ●「登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している」の設問では、県平均を16.8ポイント下回っている。	・物語文の読み取りでは、登場人物や時間の経過など教材文の叙述に着目させて、場面の様子を考える学習を重点的に指導していく。 ・朝の読書の時間や図書館利用の時間を活用して、読書活動をより一層推進していき、叙述を基に内容を捉えられるようにしていく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.7	67.8	67.0
	図形	68.1	73.9	73.1
	変化と関係	45.4	61.4	60.2
	データの活用	46.9	52.7	52.1
観点	知識・技能	59.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	51.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	54.3	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

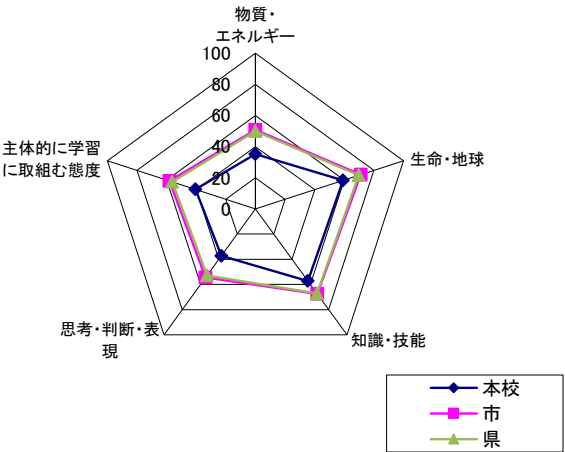
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、県の平均を10.3ポイント下回っている。 ●図を使って基準量を求めるための除法の立式は、県の平均を19.5ポイント下回った。 ●小数第二位÷整数＝小数第二位(商が純真数)の計算では、県の平均を18.8ポイント下回った。 ●小数第一位×整数の計算では、県の平均を18.1ポイント下回った。	・授業では振り返りの時間を設け、学習内容の定着を図る。 ・わり算の計算の仕方や小数の定義について再確認するとともに、朝の学習の時間や授業の始まりなどの時間に繰り返し計算の練習を行う。 ・計算の仕方を考える場面や文章題を扱う場面では、線分図や数直線などを書きながら考えるようにし、式と図を関連付けて考えることができるようにする。
図形	・平均正答率は、県の平均を5.0ポイント下回っている。 ○1000円札のおよその面積を選ぶ問題では、県の平均を6.7ポイント上回った。 ●長方形の面積を求める計算では、県の平均を10.0ポイント下回った。	・面積の求め方や立体図形の問題については視聴覚教材や実物を活用したり、自ら操作する機会を取り入れたりしながら、学習内容の定着を図る。 ・朝の学習の時間や授業の始まりなどの時間に立体を構成する辺や角、多角形の図形の特徴について復習する。
変化と関係	・平均正答率は、県の平均を14.8ポイント下回っている。 ●数量の関係を割合を使って説明する問題では、県の平均を16.4ポイント下回った。 ●基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、県の平均を15.6ポイント下回った。	・ジャストスマイルドリルや計算ドリルなどを活用し、伴って変わる2つの数量や割合に関する問題を繰り返し復習する。 ・身の回りにある割合を使ったものや伴って数量が変わる場面を扱った問題を解くなど、自分の生活と結び付けて考えたり、数量関係をイメージしやすくなるようにする。
データの活用	・平均正答率は、県の平均を5.2ポイント下回っている。 ●折れ線グラフを読み取る問題では、県の平均を16.6ポイント下回った。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、県の平均を11.3ポイント下回った。	・算数以外の教科においてもグラフを学習に生かす機会を設けて、読み取り方や考え方を再確認する。 ・授業の展開の中でなぜその式になるのか考えたり、それを説明したりする機会を設け、根拠をもって説明できるように指導する。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	35.2	50.8	50.0
	生命・地球	59.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	57.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	37.2	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	40.5	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は、県の平均を14.8ポイント下回っている。 ●「物の体積と力」「物の体積と温度」「水のすがた」に関する問題については、正答率が低く、県の平均より20ポイント以上大きく下回っている問題が多い。また、「電気の働き」「物のあたたまり方」は県の平均より10ポイント程度下回っている。	・正答率の低い物質・エネルギーの単元に限らず、どの単元においても児童が興味・関心をもって予想や実験、考察に取り組めるように、授業の導入や授業内容、実験方法などを工夫していく。 ・基礎的内容の正答率が県の平均よりも下回っていることから、振り返りやまとめの時間を十分に確保し、基礎・基本的な学習内容や理科学的な用語等をしっかり押さえ、学習内容の定着を図るようにする。 ・記述式の問題では、県平均よりも大きく低いので、科学的な思考力を高める活動を行うことと併せて、考え方や書き方等の訓練も行っていくようにする。
生命・地球	・平均正答率は、県の平均を10.6ポイント下回っている。 ○「1年間の動物のようす」に関する問題については、県の平均と同程度である。生き物の季節ごとの様子や夏と比べたときの秋や冬の様子の違いを概ね理解している。 ○「月と星」に関する問題についても、県の平均と比べてもほぼ同じである。満月の見える方位や一日の動き方を概ね理解している。ただ、方位磁針の使い方は十分ではない。 ●「天気のようにすと気温」「動物のからだのつくりと運動」「雨水の行方と地面のようす」「自然の中の水」に関する問題については、正答率が低く、県の平均より9ポイントから26ポイントと大きく下回っている。	・正答率の低かった題材を中心に、観察や実験の目的などを明確にし、児童が目的意識をもって観察等の活動が意欲的にできるようにする。 ・基礎的内容の正答率が低いことから、物質・エネルギー分野と同様に、振り返りやまとめの時間に、基礎・基本的な学習内容や理科学的な用語等をしっかり押さえ、学習内容の定着を図るようにする。 ・生命・地球分野の記述式の問題も、県平均よりも大きく低いので、理科学的な思考力を高める活動を充実させると共に、考え方や記述の仕方等の訓練を行っていくようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」「疑問に思うことは調べたい」について「はい」と回答した児童が県や市町村の平均を上回った。学校でのICT活用の充実により、情報を得る方法の幅が広がり、パソコンが子供たちにとってより身近なものになっていることが分かる。疑問点について積極的に調べたいという気持ちを生かし、学ぶ意欲をうまく活用していきたい。

○家族のことについて「自分は家族の大切な一員だと思う」では肯定的回答が市・県ともに上回った。また、他の項目についても「はい」と答えた割合についてはすべての質問で市・県ともに上回っている。一方で否定的な回答に関しても市や県にくらべると数値が高くなっていることから、2つの意見の差が大きいことが分かる。個人懇談や授業参観などの機会を利用し、児童の家庭での様子を保護者から聞くことや、教育相談活動などで児童から様子を聞くことで児童の気持ちに寄り添った支援を行っていく。

○「国語」では「授業の内容はよく分かるか」「国語は好きか」「将来役立つと思うか」の質問に対してすべての項目で肯定的な回答が市や県を上回っている。このことから、国語に関して関心意欲があることが分かる。また、「辞書を活用している」という質問に対しても肯定的な回答が多いため、国語の時間に漢字の読み方や言葉の意味について調べることができていることが分かる。

●家庭での学習の面では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が市や県の平均を上回っているものの、その他の「家で宿題に取り組む」「予習・復習に取り組んでいる」「テストで間違えた問題に取り組む」などのすべての項目で市や県の平均を下回っている。学校で学んだ内容を自宅で復習し・宿題に取り組むという習慣をつけることが課題である。進んで予習や復習に取り組むことができている児童を手本し、広げていきたい。

また、「学校の宿題は自分のためになっている」という回答に「はい」と答えたのは62.5%で県と比べると5%も下回っていることから、ただ宿題をやるのではなく自分の学びへとつなげることができるよう指導をおこなう。

●家での生活の面では、テレビゲームやテレビ時間が市や県の平均より高くなっている。メディアとの上手な付き合い方についてはおたよりなどでも積極的に周知し、保護者とも連携しながらよりよい生活習慣の確立に努めていく必要がある。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の学ぶ意欲に関する質問については、共に市・県の平均を下回っている。このことから、家庭学習や調べ学習など、自分の力で取り組む活動を積極的に行い、自分自身で課題を解決できるような働きかけをしたり、授業中に「できた」という実感をもてるような活動を行ったりすることで、勉強が楽しいという気持ちを実感できるように取り組んでいく。

宇都宮市立平石北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成 ～ I want to ～ のある授業を目指して～	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫し、自分の考えを深め、授業の中で話し合う、発表し合うなどの伝え合う場面を意図的に設定する。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答が県平均を上回った。ペアやグループで活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを伝えることができるようになった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
知識・技能の定着に一部課題が見られ、知識・技能を活用する力に課題が見られる。	習得した知識及び技能を活用しながら課題を追究する力を育成する。	教科書の問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用しながら、自ら解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。「できた」という成果が目に見えるようにしたり、共に学び合える仲間を育てたりしながら、学習に対して粘り強く取り組めるようにする。